

チロルのご紹介

コンサルティング3部 角田弘志

皆さん、こんにちは。この度コミュニフェイスに出稿の機会を頂きましたので我が家の末っ子のチロルをご紹介します。チロルはヨークシャテリアのオスで今年満8歳、くりっとしたアーモンド型の目とチョット曲毛ですが美しいメタルシルバーの毛並みが自慢です(写真1)。写真だけでは旨く伝わらないと思いますが、その立ち姿は気品があり正に生きた宝石の感があります(親バカです)。性格は内弁慶で散歩の時など他の犬にははけっして自らは近づこうとせず飼主の後ろに隠れる臆病者ですが家の中では結構自己主張してこちらの顔色を見ては吠えたり甘えたりする狡賢さを持っています。



(写真1)



(写真2)

チロルとの出会いは唐突でした。大阪赴任時代に阪神大震災に遭遇した年(95年)の初夏のある日、帰宅すると黒い小熊のぬいぐるみのような生き物が私を待っていました(写真2)。家内に聞くと「一人息子(当時10歳)の震災後の心のケアになればと思い買って来た」とのこと。でも振り返れば結果として一番癒されたのは他でもない家内本人だったように思います。チロルの写真を撮っては年賀状、カレンダー、Tシャツを印刷し最近ではホームページを立ち上げるまでにエスカレーションしています。また、毎日「チロルかわいい」を連呼していますしチロルと外出した際「かわいいと言われた／言われなかった」で一喜一憂しております。

とはいえ、そのおかげで息子も大きな恩恵を受けたのも事実です。

本来なら一人っ子として母親からの湯水のような愛情(叱咤激励・教育的指導含む)を一身に受けなければならない定めでありながら、チロルがその半分を受け持ってくれたおかげで割とのんびりこれまで生きてこられたようです。

もっとも最近では私がチロルの存在に癒されています。

東京での単身赴任生活が2年半になりますが、月に1、2度神戸の実家に帰るたびに一番歓迎してくれるのは家内でも息子でもなくチロルなのです。夜中に私が玄関を開けた瞬間奥から歓喜の声を上げて駆け寄って来てくれると毎回なんとも言えない安らいだ気分になります。

人間でいうと50歳くらいになるので最近やはり少しだけ衰えが見え始めました。ちょうど私と同年代だという意識から最近は「お互い頑張ろうな」と励まし合っています。(写真3)



(写真3)